

ゴミが増えることでの問題点は？

火災のリスク

- 調理をしているかは分からないが、火災のリスクが高まる
- ゴミの溜め込みは火災の危険性（暖房器具への引火等）
- 火災につながる恐れ
- 転倒や火災のリスクが高い
- ほこりの蓄積による火災の可能性が高くなる
- 火災などの危険性もある
- 火事の可能性
- 火災が起きる可能性

害虫やネズミ等の問題

- 食品のゴミが放置されたまま、害虫やネズミの大量発生
- 害虫等の発生により、健康を害し病気の発症を高める
- ネズミや野良猫が集まってくる
- ネズミ等の発生により、建物の修繕や駆除の費用がかかる
- 夏場などはゴミに虫が集まってきたり、臭いも強くなり不衛生となる
- 虫がわく、不衛生、臭いなど、近所に迷惑を掛ける
- 夏場はうじなどもわきやすく不衛生になる
- 異臭や害虫などで隣人とトラブルになる
- 害虫やカビ、ハウスダストなど不衛生な環境で肺炎など、体調を崩す可能性

悪臭の問題

- 周囲への悪臭問題
- 悪臭被害
- 臭い
- 悪臭がする
- 夏場などはゴミに虫が集まってきたり、臭いも強くなり不衛生となる
- 虫がわく、不衛生、臭いなど、近所に迷惑を掛ける
- 異臭や害虫などで隣人とトラブルになる
- 臭いや虫の発生
- 不衛生、悪臭等の生活環境が悪い

近隣トラブル

- 近所トラブル
- 近所迷惑になる
- 近隣住民への迷惑
- 虫がわく、不衛生、臭いなど、近所に迷惑を掛ける
- 異臭や害虫などで隣人とトラブルになる

怪我や病気等の健康問題

- 衛生面からの体調不良
- 健康上の問題
- 住環境が不衛生になる
- 住人のケガや病気の引き金になる
- 転倒や火災のリスクが高い
- 害虫等の発生により、健康を害し病気の発症を高める
- 食中毒のリスクが高い
- 健康にも問題が出る
- 汚れた環境にいることで自己肯定感や意欲が低下
- 室内が片付かないことでの転倒、怪我
- 不衛生、悪臭等の生活環境が悪い

生活環境の悪化

- 生活環境の悪化
- 生活環境が悪くなり、命の危険もある
- 災害時に避難ができない
- 自宅の敷地から出ている
- 災害時にゴミの量が増える
- 家の出入が不自由な様子→居住スペースの確保が難しくなってくるのではないか
- ゴミにより家の中や家の周りの動線が確保できず、移動が危険である（日常以外にも災害時など）
- 不衛生、悪臭等の生活環境が悪い

孤独のリスク

- 人間関係が希薄になり孤独死のリスクが高まる
- 散らかっているのを見られたくないという思いから近隣との距離ができ、孤独化する
- 他人との関わりの減少（人を招かなくなる、人が来なくなる）

その他

- 取り付けてある集積かごに入りきらない時がある
- ゴミが増えるとなおさらゴミを持って歩いていくことができない
- 不法投棄、犯罪につながる
- ゴミが溜まっても気にならなくなってしまう（意欲低下など）
- ゴミが増えることでますます本人一人では処分できなくなる（悪循環）
- 3Rされにくい
- 生活の実態が把握しづらい
- ヘルパー等のサービス事業所が入りにくい
- 遺品整理の時に困る

ゴミが増える理由とは？

分別できない

- ゴミの分別が難しくてできない
- ゴミ捨ての曜日が分からなくなる

経済的

- サービス利用できるお金がない

地域

- 区費等を支払っていないのでゴミ捨て場に出せない
- 核家族化、地域とのつながりが薄い
- ゴミの出す日を間違えて近隣の人から注意されたことがきっかけになっている

捨てに行けない

- ゴミ出しの場所が遠い
- 身体的な不自由（移動・視力低下）
- 意欲がない（精神・認知）

文化

- 使い捨て商品が増えた（プラ容器、ペットボトル、コンビニ弁当、紙おむつなど）
- 食品ロス

性格や考え方

- コロナで家で食事が多いことから持ち帰り（テイクアウト）によりゴミが増える
- 賞味期限、消費期限の表示により超えるとはきしてしまう人が多い
- 本人にとっては「意味のあるもの」「奪われたくないもの」
- 物が無い時代を経験し、再利用できるのではないかと捨てられない
- 孤独感
- ゴミが溜まっても気にならない
- 大量になんでも買う（無料・お得など）

どんな支援や提案ができるか？

近隣の関わり

- ☆ 高齢者宅へは近所の声掛けで手伝う
- ☆ 地域のボランティア等が運搬を手伝う
- ☆ こまめに訪問や連絡すると他者の目を意識するようになりゴミの溜め込みを防げる
- ☆ 親族や知人等で片づける
- ☆ 分別できているか定期的に訪問して確認する
- ☆ 関係性を築くことを優先する
- ☆ 孤独感を軽減するために近隣の人から声掛けや挨拶をしてもらう
- ☆ 本人が現状に困っているかわからないため、本人に会って話を聞く必要もある
- ☆ 地域に集まりへの参加を促して、他者とのコミュニケーションを図る
- ☆ 近所や民生委員などに協力をお願いする
- ☆ 近隣の人が苦情を伝えるときには、落ち着いて話をしてもらう
- ☆ 集落内での支援（今年度だと地域コミュニティ交付金）

収集の仕組み変更

- ◇ ゴミ出し困難な家庭へは、ゴミ収集車が庭先まで回収に出向くようになるとうい
- ◇ 収集場所まで遠く持っていけない場合は自宅まで取りに来てくれる
- ◇ ヘルパー等でもゴミ出しが対応できるような時間に収集時間を変更する
- ◇ 町内会長などをお願いし、前日ヘルパーにゴミ出ししてもらえよう調整する
- ◇ ごみの分別を簡単にする…『ゴミの分別できません！ごめんね』シールを貼る
- ◇ ゴミ出し日に関係なくいつ出して良い（高齢世帯のみ等限定してゴミ袋に貼るシールを配る）
- ◇ 年1回程度、粗大ゴミや可燃ゴミなどを自宅に回収（処分代は自費）
- ◇ 空き缶用の緑ネットを許可してもらって家に持って帰り、直接ネットに缶を捨てるようにする
- ◇ 出かけたついでに捨てられるゴミステーション
- ◇ 便利屋等の民間企業は料金が高い…補助金制度があると良い
- ◇ ハードオフや不用品回収業者に来てもらって、売れるものは売る

サービス

- ▽ ごむしんネットの活用
- ▽ 介護保険制度等を利用する
- ▽ CSWや地域包括支援センター職員等の定期訪問
- ▽ シルバー人材センターやヘルパーの自費サービス
- ▽ 不用品回収業者をお願いする
- ▽ ケアマネ（地域の方にゴミ出しルール確認、依頼）
- ▽ 精神面へのアプローチ…継続的に地区担保健師やP SWが関わる

意識改革

- 様々の危険性を高齢者に理解してもらう（転倒、火災、衛生、生活環境）
- 介護サービスの利用
- 援助側の価値観を押し付けない
- 高齢者の気持ちの尊重が必要
- 人助けをする人（介護制度、自治体、親戚、知人）がいることをわかってもらう
- 片付け方、物の置き場所を根気強く伝える
- 一緒に掃除する

分別しやすい工夫

- ゴミの分別表を大きく、分かりやすくする
- どのような物を入れるのかわかりやすい表を貼った箱等を用意する

快適さの体験

- △ 急に環境を変化させないように少し片づけて心地よさを体感してもらう
- △ 捨てられるゴミひとつからでも処分を始める

フードバンクの活用

- ◇ 食品ロス問題についてはフードバンク等の有効活用が必要

受診勧奨

- ✿ 精神的な病気の症状が現れる可能性があるため、病院受診を勧める

情報

- ◆ 業者や補助について知らせる

ゴミを捨てるのが苦手な独居高齢者への支援

見守り・声掛け・助け合い

<地域・支援者の意識>

- 本人との関係性を築く→信頼関係
- 本人の思いを理解する、一緒に考える
- 本人の状況を見極める、SOS、早めに気付く
- 根気よく関わる
- つなげる、協力者を募る

○関わり方（本人に合わせて）
 少しずつ、一歩から ⇄ 時には思い切って一気に

支援者の存在を理解してもらう

分別すること
 袋に入れること
 分別しやすい表示（箱など）
 分別表を見やすい場に貼る
 処分する前の整理
 出すこと

支援者

- 人
- こまめな関わり
 CSW、ランチ、ケアマネ、PSW、PHN、包括
 - 介護保険サービス：ヘルパー
 - 介護保険外サービス：ごむしんネット、シルバー人材、ボランティア

- 方法
- フードバンクの活用
 - ゴミの危険性の周知
 衛生、火災、生活環境、転倒、避難 etc
 - 本人に分別しやすい工夫 考える
 分別表を見やすくする、貼る場、箱、袋
 - 病院受診の勧め
 - 地域の集まりを促す
 - 片付け業者を調べる
 連絡先、内容（便利屋：不用品回収：リサイクル）
 - ゴミ収集のルール確認
 日（前日でもOK?）、時間、ゴミ袋、ネットを自宅に持ち帰りOK?

個人

（要因）

環境	身体	心
独居	移動	個性・性格
経済的	年齢	価値観・尊重
地理的	ADL	孤独感・困り感
	体調	意識・認知機能

個人、地域の実情に合わせた提案 アイデア（行政等へ）

- ゴミ収集
- 車が近くに出向く
 - 収集場が地区外でもOK
 - 高齢者向け分別表
見やすく、大きく、絵など
わかりやすく
 - 収集時間
 - 無償で回収できるように
 - 分別を簡単にできるように
 - 日にちの制限緩和
 - 粗大などを年1回自宅まで回収
 - 費用、補助制度
 - 分別なし、何でも入れてよい袋
（単価高めかもしれないが…）
- フードバンクの仕組み作り・周知

家族

- 病院受診
- 声掛け・手伝い
- こまめな関わり
- 地域の集まりへ促す
- 片付け・処分

近隣

- 声掛け・手伝い
- こまめな関わり
- 地域への集まりへ促す

民生委員

- 声掛け・手伝い
- こまめな関わり
- 地域の集まりへ促す

地域（町内会、区会、自治会）

- 収集車を近くへ
- 収集時間（前日でもOKなど）
- ゴミ袋、ネットを自宅でもOK
- ルールの確認
- 費用、補助制度の把握と活用
- 行政への提案
- こまめな関わり
- 地域の集まりへ促す

その他

- （時代の流れに伴う要因）
- 高齢者のみ世帯の増加
 - 地域性
近隣との関係性の希薄
 - 使い捨て容器・商品の増加
（ペットボトル、プラ）
 - テイクアウト

3R

- リデュース（減らす）
- マイバック
 - 詰め替え商品
 - レンタル など
- リユース（繰り返し使う）
- ガラージセール
 - フリマ など
- リサイクル
- プラスチック商品
 - 牛乳パック
 - 生ゴミ処理機の活用
 - 再生紙 など

情報共有・相談・連絡・連携

<書面回答まとめ>

1、今まで関わったゴミ問題のエピソード

- 通所施設の送迎を行っていた時、利用者宅が玄関までゴミであふれていた。自宅への出入りにも支障を来していると判断できた。施設の意向としては「ゴミの話には触れない」ということだったので、送迎中も話題にすることはなかった。プライドのある人なのでゴミの話題には触れないようにと、施設の指示だった。本人もあえて触れないようにしていたし、一切ゴミの話はしなかった。自宅の状況を見られてどう思われているのかといった思いはあったと思う。ゴミに関する対応は何も行っていない。
- 60代男性。統合失調症。兄と2人暮らし。庭や家の中の一部に空き缶やたばこ、カップ麺の空容器などが散乱している。火災の恐れや不衛生な環境にいて健康被害がおよぶ恐れがあるため、本人に処分の提案をするが、人に頼ることや金を使うことはしたくない。このままで良いと思っていると話し処分につながらない。
- ゴミ出しが困難となった高齢者に対して、住民が手助けするという地域の支え合いの取組が見られる。
- 集積所の集積かごに入れても、カラスにつつかれ、ゴミを散らかされて困った。
- 高齢者宅へ訪問時に困っていることを聞いたら、集積場所まで持っていくのが大変だと言われた。
- 高齢者がゴミ出しをするにあたり、ゴミ集積所は坂道を上がったところにあり、大変そうなので、ゴミ出しの時に声掛けをした。本人は遠慮することが多い。また、ゴミを運んだ時はお礼を持ってくるようなこともあった。そのうち息子がゴミを出すようになった。
- ペットボトル回収日に集積所に出したが、プラ回収袋に誤って入れたため回収してもらえなかった。出した人が間違いに気付くようにそのままにしておいた。その後は間違えていないようだ。
- ゴミ捨て場まで歩いて持っていけない方。当日の朝でないとゴミを出してはいけないためヘルパー対応できないケースがあった。町内会長に事情を説明し、前日、ヘルパーにゴミ出ししてもらえるようになった。また、ごむしんネットでゴミ出しもお願いしたところ、近所の方だったこともあり、当日の朝にゴミを外に出しておいてもらえれば、ゴミ捨て場まで持っていきますよと言われてもらった。
- 自分で整理ができず、業者に来てもらって家の中をきれいにしてもらったが、業者に頼むと高額であり、きれいにしても、またすぐに汚れてしまった。
- ゴミ捨てができずにゴミが山積みになっていたケースがあった。ケアマネが本人の立ち合いのもと少し捨てた。また、隣人が勝手に捨てたこともあった（隣人は鍵を持っている）。本人は勝手に捨てたことに怒り、不満、不安そうな様子だった。
- 本人は自分の家に他人が入ることが嫌でヘルパー利用できない。また、ゴミが溜まっていくことに対しどうしようもできず、分別の仕方がわからないケースがあった。何年か分を近所の方が捨ててくれた。友人が持ち出して捨ててくれた。
- 60代、男性、独居。実態把握で訪問した際に玄関から中が見えないくらい段ボール箱や服が積みあがっているのを発見。何度か訪問したが対象者に合うことができなかったため、包括へ連絡し、状況確認のため同行訪問してもらった。その際に本人と面会することができ、生活状況を聞くと日中はほとんど家におらず、車で出かけているとのことだった。後日、来所にて実態把握調査を行った。身体状況に問題はないようだったが、自宅の状況など詳しく話を聞くことができなかった。
- 息子と母の二人暮らし。母屋はつぶれてしまい納屋を部屋にして使用している。息子はたまに家に戻ってくる。生ゴミなど部屋の外に出しているだけで夏場は腐臭強い。近年、猫を飼いだしたが、近親交配して20匹位になってしまい、猫がゴミを荒らしたりするので、家の中の臭いが強く、息子もゴミを家の外に放り出したりして、敷地内がゴミだらけになった時期もあった。猫の捕獲をお願いしたが金銭的な理由でできなかった。
- 認知症になり、掃除や猫の世話ができなくなって、ゴミや猫の汚物で家が汚れていたケースがあった。介護保険サービスを利用し、保健所や包括と連携して対応した。
- 認知症の祖母と知的障害の孫。祖母がなんとかできていたうちは良かったが、その後、孫は掃除をする方法が分からずゴミを溜め込むようになった。関係者で一度は掃除する。その後はヘルパーが入り、ある程度きれいになるが、またゴミの量が増え、半年に1回位、関係者で大掃除に入っている。
- 独居。以前より家の片付けができず、ヘルパー利用となった。認知症も進み、家周辺にもゴミが散乱。納屋の中にもいつからのゴミかわからない物があり、自宅内は玄関や廊下にゴミが散乱し、居間は洋服が山積みになっていた。ヘルパー訪問当初はゴミと一緒に集め、ゴミ出しの日を紙やカレンダーに書き、捨てられることもあったが、全く捨てられなくなり、廊下から裏玄関にゴミ袋が山積みになるようになった。トイレ前やトイレ内に紙パンツやパットが山積み、台所にも配食サービスの弁当も残ったまま置かれていた。島外の家族へ連絡し、帰省して状況を見てもらい、片付けてもらったり、シルバー人材を利用して片付けを行った。その後、徘徊するようになりグループホーム入所となった。
- 入院後、ゴミ出しができなくなった。社協（ごむしんネット）に連絡し、近所で対応してくれる方を紹介してもらった。
- 生ゴミを自分の畑に捨てる利用者がいた。自分でゴミを捨てることができなくなり、ヘルパーに依頼したが、畑に捨てることはできないと言われた。
- ゴミ出し曜日にヘルパーが訪問できない。集落の方に前日に出してよいか確認すると「ダメ」と言われた。集落によっては「よい」と言われた集落があった。
- 認知症があり月1回や年に数回のみしか収集しないゴミの出す日が理解できていなかった。

<書面回答まとめ>

参考②

～ゴミが増える理由に対しての解決策を考える～

ゴミが増える理由とは？	どんな支援や提案ができるか？
コロナで家で食事が多いことから持ち帰り（テイクアウト）によりゴミが増える	
ゴミ集積所に違うゴミ（燃える、廃プラ、ペットボトル）が出してある方がいる …持って行ってくれない	→高齢者宅へは近所の声掛けで手伝う
場所によってはカラスにより散らかっている	
賞味期限、消費期限の表示により超えると破棄してしまう人が多い	→食品ロス問題についてはフードバンク等の有効活用が必要
個人の性格やその家の家庭環境 …他人から見ればゴミが散乱しているように思えるが本人にとっては何も感じない …他人から見れば価値のない「ゴミ」だが本人にとっては「意味のあるもの」「奪われたくないもの」であって捨てられることに苦痛すら感じる	→ゴミがあることが危険であることを周知する（火災や伝染病等） →こまめに訪問や連絡すると他者の目を意識するようになりゴミの溜め込みを防げる
認知症や心身の衰え等の問題で選別できない、捨てに行けない	→親族や知人等で片づける →介護サービスの利用
食品ロス	
他地区の住民が通勤経路にあるゴミ集積所にゴミを入れていく	→他地区の方が出したゴミは出した方が分かれば注意をして引き取ってもらう
時期によると生ゴミではないゴミが多く出る（草など）	→カラス被害にあわないために草などのゴミは集積かごの外におく →集積かご側面に波板等を取り付ける
ゴミ収集所まで行くことが難しい	→運搬を手伝う定期的なボランティア制度（ごむしんネット、地域のボランティア等）を利用する
ゴミの分別が難しくできない	→分別を手伝う（ごむしんネット、地域のボランティア等） →分別しやすいように分別表を見やすい場所に貼る →どのような物を入れるのかわかりやすい表を貼った箱等を用意する →分別できているか定期的に訪問して確認する（CSW等）
体調が思わしくない	→定期的なボランティア制度や介護保険制度等を利用する →定期的な訪問により体調確認等も併せてできる
体が不自由で思うようにできない	→定期的なボランティア制度や介護保険制度等を利用する →定期的な訪問により体調確認等も併せてできる
物がない時代を経験し、再利用できるのではないかと捨てられない	→物に対する価値観が違うので援助側の価値観を押し付けない →関係性を築くことを優先する →高齢者の気持ちの尊重が必要 →CSWや地域包括支援センター職員等の定期訪問 →処分する前に整理することから始める
使い捨て商品が増えた（プラ容器、ペットボトル、コンビニ弁当、紙おむつなど）	→様々の危険性を高齢者に理解してもらう（転倒、火災、衛生、生活環境）
なんでも大切にしておく（空き箱、買物袋など）	→様々の危険性を高齢者に理解してもらう（転倒、火災、衛生、生活環境）
もったいなくて不要なものを減らせないし捨てられない（昔からある物など）	→様々の危険性を高齢者に理解してもらう（転倒、火災、衛生、生活環境）
指定日にゴミを出せなかったり、分別できない（忙しい、認知症、精神疾患など）	→人助けをする人（介護制度、自治体、親戚、知人）がいることをわかってもらう →分別等が困難な場合はヘルパーなどの協力を得る →シルバー人材センターやヘルパーの自費サービスを手配
大量になんでも買う（無料、お得など）	→様々の危険性を高齢者に理解してもらう（転倒、火災、衛生、生活環境）
ゴミが溜まっても気にならないし、構わないと思っている	→様々の危険性を高齢者に理解してもらう（転倒、火災、衛生、生活環境） →急に環境を変化させないように少し片づけて心地よさを体感してもらう
過労や過度のストレスで無気力になっている（仕事、家事育児、介護など）	→孤独感を軽減するために近隣の人から声掛けや挨拶をしてもらう

ゴミが増える理由とは？	どんな支援や提案ができるか？
病気の発症や気力、体力によるもの	→ゴミ出し困難な家庭へは、ゴミ収集車が庭先まで回収に出向くようになるとよい
本人がゴミという認識がない…ゴミを捨てることで生じる本人なりの理由がある	→本人の思いや考えを確認し（捨てられるゴミと捨てられないゴミがあるのか）、まずは捨てられるゴミひとつからでも処分を始める
ゴミの捨て方がわからない	
ゴミを捨てるという意欲がわからない（精神症状による）	→精神的な病気の症状が現れる可能性があるため、病院受診を勧める
実態把握の内容から経済的にも身体的にも問題ないように思われる	→近所の人や関係機関から情報を集める →本人が現状に困っているかわからないため、本人に会って話を聞く必要もある
近所の人と話では「母親が亡くなってからひどくなったようだ」とのことだったため孤独感があるのかもしれない	→孤独感からゴミが増えてしまっていた場合には、地域に集まりへの参加を促して、他者とのコミュニケーションを図る
本人は問題だと感じていないかもしれない	→地域で見守る
「ゴミ」ではなく片付けできないだけなのかもしれない	→本人の意思を確認しながら、一部の部屋からでも少しずつ改善していけると災害時の避難経路の確保にもつながる →地域の人やボランティアに処分や片付けを手伝ってもらう →片付け業者はあるか、費用はどれくらいか、補助などあるのか調べておく
ゴミの日にゴミを出し忘れたり、出せなかったりして、それが溜まってしまい、出すのも面倒になる	→ゴミ出しのボランティア（近所でやってくれる人がいる場合） →その家の人はどこにお願いしたら良いのか判らない可能性があるため、行政や清掃代行業者などの連絡できる場所を教える
ゴミの分別ができない	→いるもの、いないもの、種類ごとに一緒に確認してくれる人（ヘルパー、生活支援ボランティア？）
ゴミ収集の日がわからない	→収集日に声をかけて、ゴミ出しを手伝ってくれる人（近所の人）
自宅⇄ゴミ集積所の移動が難しい	→収集日に声をかけて、ゴミ出しを手伝ってくれる人（近所の人）
整理整頓や衛生面に無頓着	→認知症や長年の積み重ね等あり、一筋縄ではいかない →一度、思い切って片付ける（包括、社協、シルバー人材の利用、ボランティアを募る） →片付け方、物の置き場所を根気強く伝える（ヘルパー等の定期的な関わり）
ゴミの処理方法がわからない	→一緒に掃除する
本人の身体状況の悪化によりゴミを捨てられない	→ゴミを集めるところまでではできる、玄関までゴミが出せる、掃除に対して拒否反応がないなど、本人の状況を見極める →近所に知人や親戚などがいるかを確認し、協力者を募る
ゴミがあることを問題視していない	→近所に知人や親戚などがいるかを確認し、協力者を募る
区費等を支払っていないのでゴミ捨て場に出せない	→近所に知人や親戚などがいるかを確認し、協力者を募る
認知症のためゴミを出す日がわからない	→不用品回収業者をお願いする →ゴミ出しボランティア →シルバー人材センターの利用
ゴミの分別ができない	→不用品回収業者をお願いする →ゴミ出しボランティア →シルバー人材センターの利用
ゴミ出しの場所が遠い	→不用品回収業者をお願いする →ゴミ出しボランティア →シルバー人材センターの利用 →近隣の声掛け
物に対して執着心が強い	→ゴミを溜めることでどのような悪影響が起きるか知ってもらう

ゴミが増える理由とは？	どんな支援や提案ができるか？
ゴミの収集場まで持っていけない	→収集場所まで遠く持っていけない場合は自宅まで取りに来てくれる →ヘルパー等でもゴミ出しが対応できるような時間に収集時間を変更する
ゴミの仕分けができない	→ゴミの仕分けを一緒に行ってくれる
物を捨てられない性格	
ゴミが増える人には3タイプある 1.まだ使えるかと思いき捨てられない人…壊れた家電などを捨てられない 2.必要なものか必要でないかを決められない人…ゴミ屋敷の人に多い 3.1と2の両方を兼ね備えた人	
核家族化、地域とのつながりが薄い	
身体的理由…ゴミ捨てに行きたいけど収集場所まで歩けない	→サービス利用（ヘルパー、シルバー人材センター、ごむしんネットなど） →地域利用（近所、友人など） →ケアマネ（地域の方にゴミ出しルール確認、依頼）
経済的理由…サービス利用できるお金がなく、今後、買替えもできないので捨てられない	→サービス利用（ヘルパー、シルバー人材センター、ごむしんネットなど） →地域利用（近所、友人など） →ケアマネ（地域の方にゴミ出しルール確認、依頼）
意欲の低下	
システム上の問題…月1回、月2回などの収集日を逃してしまう	→自宅にゴミを無償で回収に来てくれる →ごみの分別を簡単にする…『ゴミの分別できません！ごめんね』シールを貼る →今よりゴミの分別表を大きく、分かりやすくする →ゴミ出し日に関係なくいつでも出して良い（高齢世帯のみなど限定して、ゴミ袋に貼るシールを配る） →年1回程度、粗大ゴミや可燃ゴミなどを自宅に回収（処分代は自費）
惣菜や弁当を購入することが増えると容器がかさばり、ゴミが増える	
足が不自由でゴミ集めもできず、家のあちこちにゴミが散乱してしまう	
自分で片付けることができない（整理整頓が苦手）	→ヘルパーと一緒にゴミ集めや整理整頓を行ってもらおう →空き缶を捨てる用の緑のネットを許可をもらって家に持ってきて、直接そのネットに缶を捨てるようにする
歩けず、ゴミを持っていくことができない（ゴミ捨て場が遠く溜まっても持っていけない）	→近所や民生委員などに協力をお願いする →ごむしんネットの利用 →町内会長などをお願いし、前日ヘルパーにゴミ出ししてもらえよう調整する
ゴミの仕分けができない（燃える、燃えない、ビン缶、ペットボトルなど）	
ゴミの収集場所に行くのが困難になる （自宅からゴミの収集場所まで遠い、歩くのがつらいなどが理由）	→近隣住民等の協力、有償ボランティアの利用（ゴミの分別、ゴミ出しの手伝いなど）
ゴミの分別ができなくなる	→近隣住民等の協力、有償ボランティアの利用（ゴミの分別、ゴミ出しの手伝いなど）
ゴミ捨ての曜日がわからなくなる	→近隣住民等の協力、有償ボランティアの利用（ゴミの分別、ゴミ出しの手伝いなど）
もったいなくて捨てられない	
必要以上に購入する	
以前ゴミを出す時、ゴミの出す日を間違えたり、近隣の人から注意されたことがあったりしたのではないか	→意欲を保たせプライドが傷つかないように、集落・隣近所で話し合い、収集日の声かけを行う →近所の人から収集日に「ゴミ捨てに行こう」と声かけする →本人が納得した場合だが、収集日のゴミ捨ての声かけなど
本人はゴミだと思っていない	

ゴミが増える理由とは？	どんな支援や提案ができるか？
捨てられない	
視力がかなり落ちているのではないか	<ul style="list-style-type: none"> →ヘルパーの利用 →ごむしんネットの利用 →声がけして、ゴミを持っていく
足など悪くてゴミ出しができない	<ul style="list-style-type: none"> →ヘルパーの利用 →ごむしんネットの利用 →声がけして、ゴミを持っていく →出かけたついでに捨てられるゴミステーション
ゴミの分別ルールは支援の必要な人には難しい…「どうしたらよいかわからない」「面倒」を放置した結果、どんどん溜まっていき自力では解決できなくなる	<ul style="list-style-type: none"> →便利屋等の民間企業は料金が高い…補助金制度があると良い →精神面へのアプローチ…継続的に地区担保健師やPSWが関わる →ゴミ問題をSOSと捉え、困りごとへ介入する →片付けられない家が地域にあったら白い目で見たりせず、「そこに困っている人がいる」と認識し、地域住民から民生委員に相談する →偏見をなくして、ゴミ問題解決後も地域で気にしてみている →ハードオフや不用品回収業者に来てもらって、売れるものは売る
その他	
一人暮らしで出るゴミも少ないので、分別されてあるゴミを月1回集積場所まで持って行った	
ゴミを捨てるのが苦手な方は、ゴミを捨てるのが難しい要因も明らかにすることが難しい場合が多い→定期的な訪問により関係性を築いていくことが一番大切だと思う	
近隣の人が苦情を伝えるときには、落ち着いて話をしてもらう	
ランチとしては包括やCSW等の専門職へつなぐ	
ゴミが増え、人が来なくなるとさらに片付けなくなると思われ、定期的な声掛けや関わりが必要と思います	
ケアマネとしては近所の方や民生委員、地域の役員などとも話し、事情の共有や今後の対応の相談もしていけると良いかと思う	
ゴミ捨て場が遠い、持っていけないケースもあるので、もう少しゴミが捨てやすくなるとありがたいと思う	
状況に応じて、専門機関、行政と地域と情報共有	
集落内での支援（今年度だと地域コミュニティ交付金）	